



街のわだい

TOWNS★TOPICS

11月 3日 市内外から6万人「かすみがうら祭」楽しむ



よさこいソーランのステージ披露

第5回目となるかすみがうら祭が、第1常陸野公園・千代田公民館で開催され、過去最多の6万人の人数となりました。総合型地域スポーツクラブのよさこいソーランや郷土芸能発表、ロバやアヒルの「ふれあい広場」などの76もの模擬店や体験コーナーでにぎわいました。模擬店や発表団体をはじめ、祭を支えてくれた皆様に感謝いたします。



市内保育所(園)子どもたちによるお遊戯披露

11月 12日 戦没者に追悼の誠を「戦没者追悼式」を挙

戦没者遺族相談員
戦没者遺族の福祉増進のため、地域の実情に精通した相談員が、遺族の心理的・社会的相談にお応えします。
山内 庄兵衛相談員(上佐倉)

戦傷病者相談員
戦傷病者の福祉増進のため、年金や一時金の支給など、戦傷病者の更生にかかる相談にお応えします。
辻 信一郎相談員(安食)

市主催の戦没者追悼式(3年に一度)を千代田公民館で挙行了しました。式には、遺族など約200人が参列し、菊の花を祭壇に供え、980余柱の戦没者のご冥福を祈り、恒久平和を誓いました。

また、市には、戦争で負傷した方や遺族の方の相談・援護のため、厚生労働大臣から委託を受けた相談員が必要な指導を行っています。



帆引き船をイメージした祭壇に献花を供える参列者(合唱:市内コーラスグループ「エコくりの実」)

11月 25日 高齢者 ほうきづくりに挑戦



前列右から3番目が講師の木村きちさん(下志筑)。竹屋として、月に千本を目標に竹ほうきを作っていた頃もありました。

農業者年金受給者協議会による、竹ほうき作り教室が千代田公民館で開催されました。市内の孟宗竹を使用したほうきづくりに真剣に取り組まれました。

11月 18日 児童に防犯教室

下大津小学校で、土浦警察署のスクールポーターの協力による防犯教室が行われました。児童は、教室に進入した不審者を先生が「さす又」で取り押さえている間に避難することや、簡単な護身術を学びました。



知らない人に声をかけられたときの約束事「イカのおすし」
イカ行かない 魚乗らない 困大声で叫ぶ すぐ逃げる 知らせる

第9回霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト2009 入賞作品紹介

いまなお新鮮さ衰えぬかすみがうらの風物詩

- 審査員特別賞・霞ヶ浦河川事務所長賞
- 最優秀賞・市長賞(小中学生部門)
- 最優秀賞・市長賞(風景の部)



「霞ヶ浦水軍」田中公倫さん(土浦市)



「霞ヶ浦の帆引き船」大久保 洗生さん(南中学校)



「朝あけの湖面」齊藤 一郎さん(坂)

- 市観光協会会長賞(帆引き船の部)



「順風満帆」桜井 武さん(加茂)

- 優秀賞・市議会議長賞

総勢 396 点の応募があったフォトコンテストの入賞作品が選ばれ、11月21日の「霞ヶ浦帆引き船まつり(あじさい館)」で表彰式が行われました。広報誌では、入賞作品の中から、9点を紹介します。(帆引き船の部最優秀賞は、表紙で紹介しています。)



「仲冬の陽に映える」飯嶋 清さん(加茂)

- かすみがうら市漁業協同組合長賞



「この腕で」加瀬 雅俊さん(深谷)

- かすみがうら市商工会長賞



「夕映の帆」田井 俊夫さん(稲吉東)

- 市観光協会会長賞(風景の部)



「ダイヤモンド富士」田井 俊夫さん(稲吉東)

審査員講評
立木寛彦さん
(社)日本写真家協会会員
日本旅行写真家協会理事
2001年に始まった霞ヶ浦帆引き船フォトコンテストは、9年間も継続されて来、今年も次第に良くなり今年度は全体にグレードの高い作品がそろった。同時に、写真の向上が目立ち「ホン」とする心のゆとりややさしさ、感動する情のこもった作品が少なかった。大自然から生まれる太陽と霞ヶ浦の湖面の表情、湖霧を生かしてそこに「帆引き船」が写し出されるドラマチックな撮影、自然現象のまばらさを味方に付け、瞬間の絶景を狙って下さい。素晴らしい作品をお待ちしています。

沓掛博光さん
(筑波学院大学講師)
今年で9回目を迎え、応募された作品は率直に言って、全体的にレベルが上がり、底辺も広がったという印象を受けた。応募者各人が常にチャレンジし、ネクストをねらう努力が結実したのと思われ、今後は帆引き船に加え、一般風景の部の積極的な応募も期待しています。